

Happy Birthday

HAIBAO!



おめでとう! 海宝

万博マスコットの海宝が 一歳になりました!

みなさんこんにちは、海宝です。
2007年12月18日にこの世に生まれてから1年が経ちました。そう、ボクは一歳になったのです。この一年の間、とても忙しくて大変でした。だけど、だんだん僕と上海万博を知る人が多くなったので、とてもうれしいです。今までに訪れた大きな街、小さな町、広場や公園のすべてに僕の足跡を残し、さらに多くの人々に上海万博と僕を知ってもらい、2010年への期待を高めてきました。北から南、古都から近代都市まで、旅したすべての場所で印象に残るように努力しました。また、すべての中国人に万博を理解してもらうために、テレビ、雑誌、戸外広告、宣伝グッズ、ポスター、掲示板、万博図書、専売店、いたるところでボクの姿を見かけることができますよ。さらにボクは笑顔で世界に向けての中国の挨拶を伝えています——「中国2010年上海万博はあなたを歓迎します!」

海宝からの メッセージ

海宝の旅

もし、あなたが、「海宝はどこ?」と聞いたなら、その答えは「いたるところに!」である。

確かに、この短い一年の間に、海宝の可愛らしいイメージはどこでも見かけられるようになった。

広場では人々が海宝の像と一緒に写真を撮り、学校で学生の歓声が聞こえると思えば海宝の着ぐるみがパフォーマンスを行っている。書店では紙の上の海宝が、知識を求める人々を万博の世界に誘う。地域コミュニティでは海宝と住民が仲良く集い、おじいちゃん、おばあちゃんが争うようにボランティアに志願する。

上海に留まらず、海宝はすでに中国各地と世界を徘徊している。彼はガイドであり、スターであり、パフォーマンスであり、教師であり、親善大使である。どの役を演じても海宝は2010年の万博の招待状を世界に向かって発信している。

この一年、海宝は人々の心に刻まれ、海宝は万博を人々の心に刻んだ。



海宝が豫園をガイド

豫園と海宝。国内外にその名を知られている名所と万博のマスコット。両者が出会ったとき、どのような火花が散るのだろうか？2008年2月、初めて海宝の像が豫園九曲橋広場にその姿を現したとき、すぐに「万博熱」が点火されたことが思い出される。この時から九曲橋の湖畔の海宝像はいつも多くの観光客に囲まれている。海宝の宣伝効果をより高めるために、動く海宝のガイドも豫園内の各見所に出現している。彼らは時には観光客に道案内をし、ある時には子どもたちと遊び、無邪気にかわいく、とても活発である。海宝のガイドにより、観光客は万博に対する理解が一步進み、海宝に扮するスタッフに志願する人は万博に貢献するために先を争って応募してくる。

海宝が豫園に現われてからこの一年にこなした仕事は少なくなかった。上海の古い町の文化発信地である豫園は、毎年3700万人の観光客が訪れる。この数え切れないほどの観光客を前に、海宝は始終変わらず観光客ひとりひとりに上海万博からの招待と挨拶を贈ってきた。豫園は上海万博を宣伝するための絶好の場所である。

同様に、海宝はすでに瀘上の各ビューポイントに配置され、各地から訪れる観光客に呼びかけている。

「2010年上海万博への来場をお待ちしております。」「絶対、絶対来てね！」と

幾山河を越えて

海宝は一歳になったばかりだが、旅行の経験はとて豊富である。すでに国内外各地にその足跡を残しているのだ。海宝が全国各地を訪れると、人々は彼の周りで遊びながら時間が経つのを忘れてしまう。一番喜ぶのは子どもたちで、足を止めて眺めたり、触れたり、争って記念撮影をしている。また、海外の各地も訪れ、各地の景色に溶け込んでいる。スペイン・サラゴサ万博の会期中には、中国館前の海宝像は多くの観光客と記念写真におさまった。

上海万博新聞宣伝部スタッフによると、すでに200以上の海宝像が人々と顔を合わせている。その中で100近くは上海を出て、国内外の各都市に設置され、現地の市民・観光客とともに上海万博への期待を膨らませている。また、海宝のぬいぐるみや着ぐるみが旅した場所も数え切れない。国内の万博宣伝活動中、海宝の着ぐるみと現地の人々は一緒に踊り、海外の宣伝活動では海宝のぬいぐるみは双方が親しくなった「証」となっている。

海宝の足跡ひとつひとつは「より良い都市、よりよい生活」を各地に焼き付けてきた。



昆明市を訪れた海宝

着飾った都市の街角

高架路、商業区、幹線道路では海宝のかわい

い姿の描かれた旗がはためいている。バス停、空港、地下鉄駅では海宝の宣伝ライトボックスがいたるところにあり、南浦大橋、万博会場建設地、瀘寧高速には海宝の看板が立てられている。上海万博開催が近づくにつれ、万博の色合いはますます濃くなってきた。

「都市を飾る」のは決して簡単なことではない。上海電力広告会社が大部分の旗の設置作業を受け持った。責任者の楊魯華が記者に語るには、「高架道路の交通の特殊性により、安全を確保するため、毎晩2、3時間しか作業時間がとれません。しかしながら、上海万博マスコット海宝をより早く市民のみなさまに見ていただくため、従業員は連日残業して、深夜の高架路上に旗を設置しています。」

イメージキャラクター海宝は戸外の持ち場を守りながらも、さらに新しいメディアにも現われている。上海万博のアプローチの仕方はより積極的になってきており、四角いビルの液晶スクリーンは、エレベーターを待つ退屈な時間を「万博宣伝タイム」に変えている。

2007年9月からはマスコミが率先して万博宣伝映像の放映、ネット上での配信等を行ってきた。海宝が誕生してからは、人々は商業ビル、スーパーマーケット、コンビニ、空港バスなど多くの場所に設置された液晶スクリーンで、活発に動き回るかわいらしい海宝のイメージを目にすることができた。今これらのイメージ映像は、上海、成都、武漢、杭州、昆明、濟南、蘇州、珠海、台州、蘭州など数十都市と、オーストラリア、マレーシアなど多くの国と地区で目にする事ができる。



マカオ議事庁前の海宝



延安路高架道路にある海宝広告ボード



特別な「ご近所さん」

海宝と「ご近所さん」になる。これはいいアイデアである。

浦西の万博会場入り口である中山南路・西藏南路口の海宝像は地域住民の共通の「ご近所さん」である。2008年2月21日に海宝が「入居」してから、この近辺で働く半淞園街道住民委員会スタッフと地域の清掃員は交代で海宝の像を清掃し、この特別な「ご近所さん」がいつでも海の青色を保てるようにしてきた。海宝の像への思いやりは市民の万博への関心と期待を体現している。

この住民である陳おばさんは、「海宝がやって来た日、孫娘がとても興奮していました。毎朝幼稚園に行く時には、海宝に、おはようの挨拶をしています。」と語ってくれた。肖おじさんは記者に、「町内会でしょっちゅう万博についての学習会を行っていますよ。住民は自



スペインにいる海宝



万博PR大使としての海宝は長野県川上村を訪れる

発的に海宝の像の前に集まり、万博を迎えるための活動も行って、知識の普及やパフォーマンスをしています」と教えてくれた。

海宝の像のそばに、手動のカウントダウンの日めくりが見えた。責任者が言うには、毎晩あるいは毎朝早くに当番がめぐり、往來の人々に上海万博が近づいているの知らせるのでうだ。今、各地で海宝の姿を目にする事ができる。花壇には海宝の環境保護の注意書きがあり、壁には海宝の宣伝スローガンが書かれ、町内会のおばさんの腕章の上にも海宝のかわい姿を見かけることができる。

ご近所さん達は海宝を歓迎し、住民と上海万博の関係はますます親密になってきた。まさに人々が口にする「みんなの万博、みんなで参加、みんなで開催」のシーンが展開されている。

海宝と楽しく過ごす

「右手を挙げて、左手を腰に当てる」笑顔の女の子たちが、海宝のプリントされたTシャツを着て、思い思いに海宝のポーズをとっている。彼女たちは2010年万博上海大学生プロモーションチームのメンバーである。「海宝ダンス」は彼女たちが中心となって行っている。

プロモーションの機会が増え、「動く海宝」に扮する大学生らは可愛い海宝のイメージを広くアピールしている。チームリーダーの姚佳は手ごたえを感じており、「曹楊街道でプロモ

ーションを行っているとき、2,300人の中学生が参加して「海宝ダンス」を教えているとき、みな我先にと争い、ステージは押し合い、へしあいで大変でした。」

子供たちが喜んで踊っているだけでなく、大人も楽しんでる。姚佳は思わず思い出し笑いをしながら教えてくれた。「以前長寧区でプロモーションを行ったとき、おじいちゃん、おばあちゃんたちがとても積極的で、「海宝ダンス」を見よう見真似で踊ってくれました。」

「左通行、右に立つ」のルール

都市文明の提唱者として、海宝は去年11月に地下鉄八号線・大世界駅のエスカレーターに現われた。「左通行、右に立つ」のプラカードを掲げ、エスカレーターを利用する市民に自発的にルールを守るように呼びかけている。ルールを守っていたり、その場で気づいて改めると、ボランティア海宝から一輪の花が記念として贈られ、「左通行、右に立つ」実行の標識が出される。

通行人たちは海宝を見かけると、まずは喜び、海宝の意図を理解すると自発的に「左通行」を実行する。大音量のスピーカーや宣伝文句で宣伝するより、海宝の登場のほうが効果的である。

通行人たちは皆口々に、万博を市民の意識を



海宝はコミュニティーにも設置された

変える契機とし、海宝とともに都市の文化的生活のために努力すると表明した。このプロジェクトは「左通行ホワイトカラー着ぐるみ族」と名付けられ、南京東路地区綜合管委會と団委會の主催により上海万博の開催まで続けられる。募集半月で100名のボランティアが集まった。「素晴らしい万博、文明が先行する」は海宝が引き続き提唱していく任務の一つである。

カバーモデル

万博関連書籍の市内での売り上げが好調に伸びているのに伴い、海宝は全市内の各大型新华書店の上座に置かれるようになっていく。種類・形式もさまざま万博書籍は、読者に100年の万博の輝きを見せるだけでなく、上海万博の精彩を望み、さらには万博と来場者の交流の架け橋の役割を務めている。海宝の出現は、市民、特に子供たちと万博の距離を近づけた。

「これらの本は良く売れていますよ！」と、上海の某新华書店のスタッフ王さんは言う。「特に、『海宝の万博ガイド—ゲームサーフィン』は子ども受けがいいです。それから『万博に進む—万博知識150問』は非常に人気があり、売り上げランキングにも入りました。これらの書籍カバーは、海宝のかわいイメージを採用しているの、上海万博図書専用のディスプレイ棚の上でも目を引き、お客様は海宝を一目見ると真つ直ぐにこの棚に向かってきます。」

「海宝の万博ガイド—ゲームサーフィン」

の中で、海宝はガイドと先生に変身し、子どもたちと一緒に迷路を進み、計算、折り紙、お絵かき、それから万博の歴史を紹介し、子どもたちを未来の上海万博へと導いていく。海宝は子どもたちのよいパートナーとなり、遊んだり学んだりしながら万博知識を広めている。



海宝を巡る 人びと

取材協力：上海均瑶文化伝播有限公司 馮川
上海新世傲股份有限公司 盛薇

海宝グッズのデザイナー馮川氏は「海宝のデザインには並外れた意義がある、なぜならこれは上海万博に貢献しているのだから」と語り、並々ならぬ意欲をみせる。

海宝のシンプルな外形は、デザイナーの腕とアイデアが十分に発揮できる余地があることを意味する。デザイナーチームはデザイン室にこもってアイデアを搾り出す。ひとつひとつの海宝グッズが世に出ていくのに伴い、これらマスコットのイメージは深く人の心に入り込んでいるのだ。

成果の話に及ぶと、馮氏は「皆さんがよく見かける海宝は、腰に手を当てる片手の親指を立てています。我々はこのイメージを一新するため、海宝に、変身、してもらいました」

均播のデザイナーたちは精魂こめて「都市シリーズ海宝」をつくりだした。「ペインター」「ラプソング・プリンス」「スポーツファン」「ファッションリーダー」など色々なスタイルの海宝は、それぞれが活き活きとしており、人々から愛されている。

馮氏は「海宝を買い求めることは今の時点で人々が親密に万博に触れる方法のひとつである」と語った。彼は海宝をデザインする作業を通常のデザイン作業に比べて「特別」であると区別

をつけている。そして、「これら海宝のデザイン作業はデザイナーとしての仕事であるだけでなく、一市民としての義務と責任として受け止めている」とも語った。

万博特許商品の設計構想において、デザイナーの盛薇は「機能」を重要視している。彼女は特許商品を記念品として使われるだけでなく、日常生活に利便性を提供するもの、かつ美しさを損なわないものであるべきだと考える。もうすぐ販売が始まる「新春紅火」シリーズがそのよい例で、なかでも「写真立てTシャツ」は彼女の印象に深く残っている。これは製品とパッケージの一体化した商品であり、パッケージから取り出してTシャツとして着てもいいし、パッケージに入ったままで装飾品としてもいい。価格も高くなく、部屋のワンポイントとしても、プレゼントとしても使える。

「万博の魂は新たな創造を提唱することである。これはデザイン作業の理念と図らずも一致する。万博のためのデザインは、デザイナーとして全力で取り組みたい」と、盛薇は誇らしげに語った。

万博の特許商品として、素材の選択に関しては条件は非常に厳格で、海宝の健康管理には一分の隙もない。「基準に合わない布など、返品を繰り返すこと3、4回を数える状況もよくあることです」と彼女は語る。

海宝グッズが消費者に喜ばれるプレゼントになれば、デザイナーとしてこのうえない喜びである。「値打ちを超えた価値」とはこのことであらう。

海宝はただの商品ではない

取材協力：万博特許製品専売ショップ責任者 孫さん

東方明珠にある上海万博特許製品専売ショップの中で、観光客の肖さんは三つの海宝のおもちゃといくつかの海宝の抱き、枕を手提げながら満面の笑みを浮かべていた。「こんなにかわいい海宝ですから、親しい友人に贈るのにこれほど適しているものはないですよ」と彼女は興奮気味に語ってくれた。

ショップの責任者は「海宝が誕生してから今まで、海宝関連グッズはすべてよく売れていきます。特に北京オリンピックが閉幕してからはオリンピックマスコットから海宝へ購買傾向が変化しました」「春節には、多くのお客様が海宝を里帰りの土産として買い求めてくださいました」と説明してくれた。

今のところ、上海や北京で30店舗以上の専売ショップがオープンしている。どのショップへ行ってもカウンターに海宝が並べられており、その笑顔が道行く人々の足を止め、ショップを訪れるのを迎えてくれる。

ハッピー バースデー!! 海宝

取材協力：上海師範大学体育学部学生 張媽

張媽は上海師範大学体育学部の学生である。海宝誕生について語るときには彼女とその同級生たちを挙げないわけにはいかないだろう。なぜなら24・000枚に及ぶドミノで海宝誕生を全世界に伝えるための特別な舞台を作ったのは彼女らなのだから。

「海宝誕生の情景をまだ覚えていて？」という記者の質問に、張媽は2007年12月18日の特別な夜を思い返し、「もちろん覚えています。一生忘れられないでしょう」と答えた。

あの夜、上海の大舞台では中国2010年上海万博マスコットの発表会が行われていた。そしてハイライトであるマスコット発表の時は訪れた。吉祥を意味する真珠貝から光輝く真珠がこぼれ落ち、軌道に沿って転がり、ドミノの最初の一枚を倒した瞬間から、場内の人々は24・000枚のドミノが倒れていく様子を息をのんで見守っていた。まずは外側の虹のデザインが現われ、最後に一気に海宝の姿が現われた。この時、学生のなかには感極まって涙するものもあった。張媽もその中のひとりである。「上海万博のマスコットの発表の現場に立ち会い、国のために世界の人々の注目を集めたことを光栄に感じています。これは一生忘れられない思い出です」と彼女は語った。



東京ビッグサイトに来た海宝



東京のイベント会場にて



日本の子供も海宝が大好き



2010上海万博日本PR館の入口で見学者を迎える海宝